令和6年度看取り介護実施報告

（1）概況報告
面会制限のある中、終末期に入っているご利用者様には、居室での面会を促し、ご家族との時間を少しでも多く作ることができた。そのことにより面会時に、ご家族の死への受容に対する精神的ケア行うことにも繋がった。

（2）看取り介護実施状況
①看取り介護実施件数
・R6年度退所　19医療希望　4名・病院で死亡 2名・看取り介護にて死亡 13名）

②R6年度看取り介護を実施した入所者

	性別	年齢	介護度	入所年月日	看取り開始日	死亡日
1	男	76	3	2023/8/25	書面間に合わず	2024/4/5
2	女	90	3	2018/12/25	2019/1/18	2024/5/12
3	女	90	4	2023/11/21	2024/10/5	2024/10/27
4	女	100	4	2018/8/24	2022/3/9	2024/11/1
5	女	75	4	2024/3/11	2024/11/7	2024/11/15
6	男	88	4	2023/11/6	2024/3/2	2024/12/15
7	女	95	4	2017/4/3	2017/7/6	2024/2/28
8	女	98	4	2016/4/1	2024/4/18	2024/12/31
9	女	76	5	2024/10/29	2024/10/29	2025/1/9
10	女	89	5	2012/2/23	2024/9/28	2025/1/9
11	女	95	4	2021/8/24	2024/2/10	2025/2/2
12	男	96	5	2019/3/16	2022/10/6	2025/2/8
13	女	100	4	2021/6/12	2021/7/8	2024/2/24

計　13名（男　3名・女　10名）

⑶看取り介護に対する意見
①家族の声
・施設で最期まで迎えられて良かったです。

・任せきりで申し訳なかったが、自分も足が悪かったので、助かりました。

・土日の面会がもっとあれば良かったです。一度食事が食べられないと思った時があったが、また食べられるようになって良かったです。

・最期、家族で看取れてありがとうございました。

・最期、穏やかな顔で良かったです。

・会いたいと言ってくれた人たちが皆会うことが出来たので良かった。看取り介護とはどういうものか今一わからないままだったから、どうしたらいいのかと思うことはあった。

・デイサービス、ショート、入所と長くお世話になり助かりました。コロナ禍で面会が思うようにならなかったのが、少し残念でした。

②職員の声
介護職員
・家族の面会が多くあり、本人は嬉しかったと思う。本人のやりたかったこと（本を読むなど）や欲しい物などは家族が持って来てくれて良かった。

・お孫さんが時々、飲み物や食べられそうな物を持参してくれ、それを提供することができたことは良かった。

・笑顔が見られたり元気だったので、外に行けたりできれば良かった。

・点滴を居室で行っていた時も声掛けに反応がよく、ゼリー食も5割、気をつけながら介助ができた。もう少し、レクリエーションやクラブ活動に関われれば良かった。

・皆からよく声を掛けられていたので、最後の最後までコミュニケーションが取れていたと感じた。

・離床時間が短く、他利用者との接点がほとんどなかった。フロアでは職員が声掛けをしていたが、居室で好きな音楽を流したりなど、できることがあったかもしれない。

・衣類の変更も状態に合わせてできて良かった。本人が苦しくないように、無理なく食事の提供など工夫ができたのかなと思う。

・話ができたので、本人の希望に沿った対応ができた。

・調子が良い時には、声掛けをすると発語があり、喜怒哀楽の反応を伺うことができた。

・クラブの参加ができなくなるまで、2回に1回はクラブに参加ができ、作品をいくつか家族に渡すことができた。バルーンカテーテルが入っていたので煩わしかったのではないか。
内出血も少なく、多職種で連携できて良かった。

看護職員

・亡くなる前日まで、食事も摂れ、食堂で他利用者と一緒に過ごせて良かった。

・最後は家族の希望で点滴を行ったが、その間に食べられそうな物を提供したり、家族が状態を受け入れるまでの時間を持つことができたのは良かったのではないか。

・痰がらみがありながらも食思良好で、最後まで摂取できたことは良かった。

・食事量が低下し、痰からみも多く、吸引回数が増えたのは大変だったが、上手に痰をだしてくれた。皮膚トラブルや褥瘡もなく過ごせて良かった。

・最後は足指の壊死もあり、対応に苦慮した。
家族が補食やおやつの購入に、協力的だったのは良かった。

・最後は、臀部、耳介の褥瘡悪化、拘縮進行があり、本人の負担が大きくなったのかと思う。

・血糖コントロール不良で危険な時があったが、その後、一時は食事が摂れるまでに回復したので安心した。

・身体の拘縮が酷くなり、皮膚状態も悪化し処置対応は負担が大きかった。食事も誤嚥に注意しながらだったので、大変であった。

生活相談員

・孫、ひ孫も定期的に面会に来てくれていたが、直前は会えなかったのが残念だった。
心臓病を持っている方は、体調がすごく悪くなくても、急変があるので、居室面会の機会を、早めに設けても良いかと感じた。

・本人が若い頃から家族に「点滴など色々やらないで」と言っていたことを家族が聞いていて、看取り介護を希望したので、本人の意向に添えたのかなと感じた。

・食事は、食べたくない時には手を振ったり、意思表示が出来たので、無理せずにわかりやすかった。家族の居室面会も何度かあり、状態についても理解してもらえていたと感じた。

・処置をしている足の状態をIPADで家族に見てもらったが、今後も見えない場所の場合はその

ような対応が良いと思った。

・意思疎通の困難さがあり、快適に過ごせていたか、苦しいのか等のわかりづらさがあった。

・家族の看取り介護に対する受け入れができるまでに時間が必要であったこと、その精神的サポートがどこまでできたかがわからず、今後の課題でもある。

管理栄養士

・以前から水分が嫌いで、飲んでもらう為に形態を替えたり、低カロリーゼリーなども検討したが、なかなか飲んんでもらえなかった。

・好きだった食べ物を聞けなかったので、細かくリクエストを聞いておけば良かった。

・なかなか飲み込まず、食事介助も怖かったが、最後まで食べられたことが良かった。

・胃瘻の方で痩せているのが強く表れていたので、本人の為にも、きちんとしたカロリー、たんぱく質、水分量を計算し、多職種で共有することが大切だと思った。

・自分のペースで食事を摂っていたので、最期までペースが変わらず、本人にとって良かったのではないかと思う。

・痰がらみがありながらも、看護師に吸引してもらい、最期まで経口摂取できたのは良かった。

・目が見えなかったが、プレートから普通の食事が自分で食べられ、主張もできたので良かった。